

## ヘリウムガス不足から生まれたビジネスチャンス

2012年末から、世界的にヘリウムガスの不足が話題となっています。

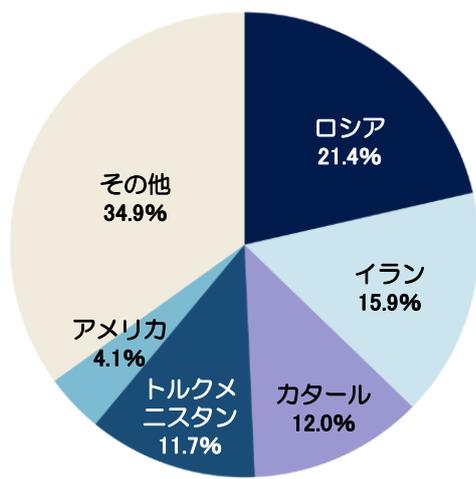
ヘリウムガスは風船を膨らます際に使われるため、一部の遊園地では、子供たちに人気の風船をいったん販売中止にするなどの影響が出ました。不足の背景には、世界的な生産量の減少と、設備投資旺盛な新興国において半導体や光ファイバーの生産工程で使用する需要が急増したことが挙げられます。

そこで動き出したのが、ロシアにある世界最大の天然ガス会社ガスプロム社です。ロシアは天然ガス埋蔵量世界1位を誇り、同社は全世界の天然ガス生産量の4分の1を占めています。ヘリウムガスは天然ガス採掘時に副生産物として精製されるため、その供給量は天然ガスの生産高に大きく影響を受けます。

ガスプロム社はこれまでロシアおよび旧ソ連諸国、欧州への輸出を主に行ってきました。今後は不足が心配されるヘリウムガスは元より、ガス輸入国世界第1位の日本や成長に伴い需要の高まるアジアを中心とした成長国\*・新興国の開拓にも乗り出しています。

\*「成長国」とは、ゴールドマン・サックスが提唱する今後世界経済の成長を牽引するであろう8カ国(ブラジル、ロシア、インド、中国、韓国、トルコ、メキシコ、インドネシア)を指す。

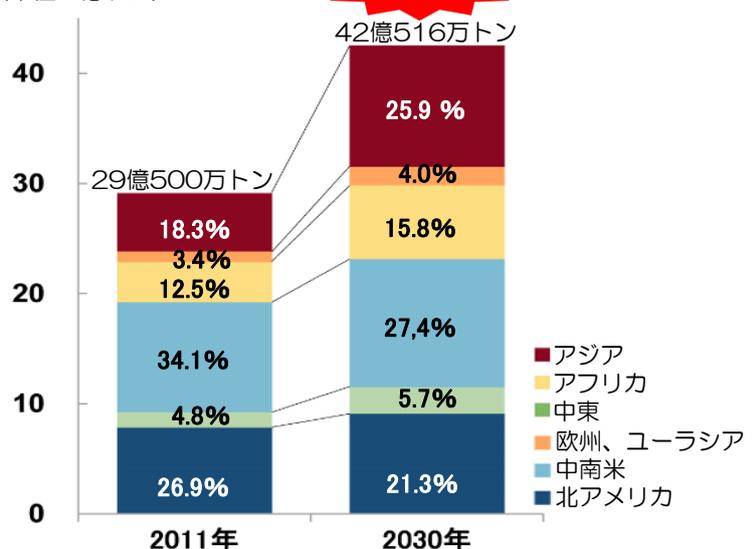
天然ガスの埋蔵量(2011年)



(出所) BP Statistical Review of World Energy June 2012

各国の天然ガス消費量の比較(2011年、2030年)

(単位: 億トン)



(出所) BP Energy Outlook 2030 ※2030年は予測値

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、信頼できると思われる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、あくまで例示をもって理解を深めていただくためのものであり、当該個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等を推奨あるいは勧誘するものではありません。経済、市場等に関する予測は、高い不確実性を伴うものであり、大きく変動する可能性があります。弊社あるいは弊社グループ及び予測機関は、予測値の達成を保証するものではありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(Ⅰ)複製、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(Ⅱ)再配布することを禁じます。

<審査番号: 98086.OTHER.MED.OTU> © 2013 Goldman Sachs. All rights reserved.